

●大会運営を中心に、歴史を振り返る雑談です。

2016-03-23

電子情報システム管理のこれまでと今後

－ 大会運営関連システムを中心に－

竹中明夫（国立環境研究所）
大会企画委員会・運営部会
電子情報委員会

- 生態学会全国大会は、このように130人が集まって始まりました。

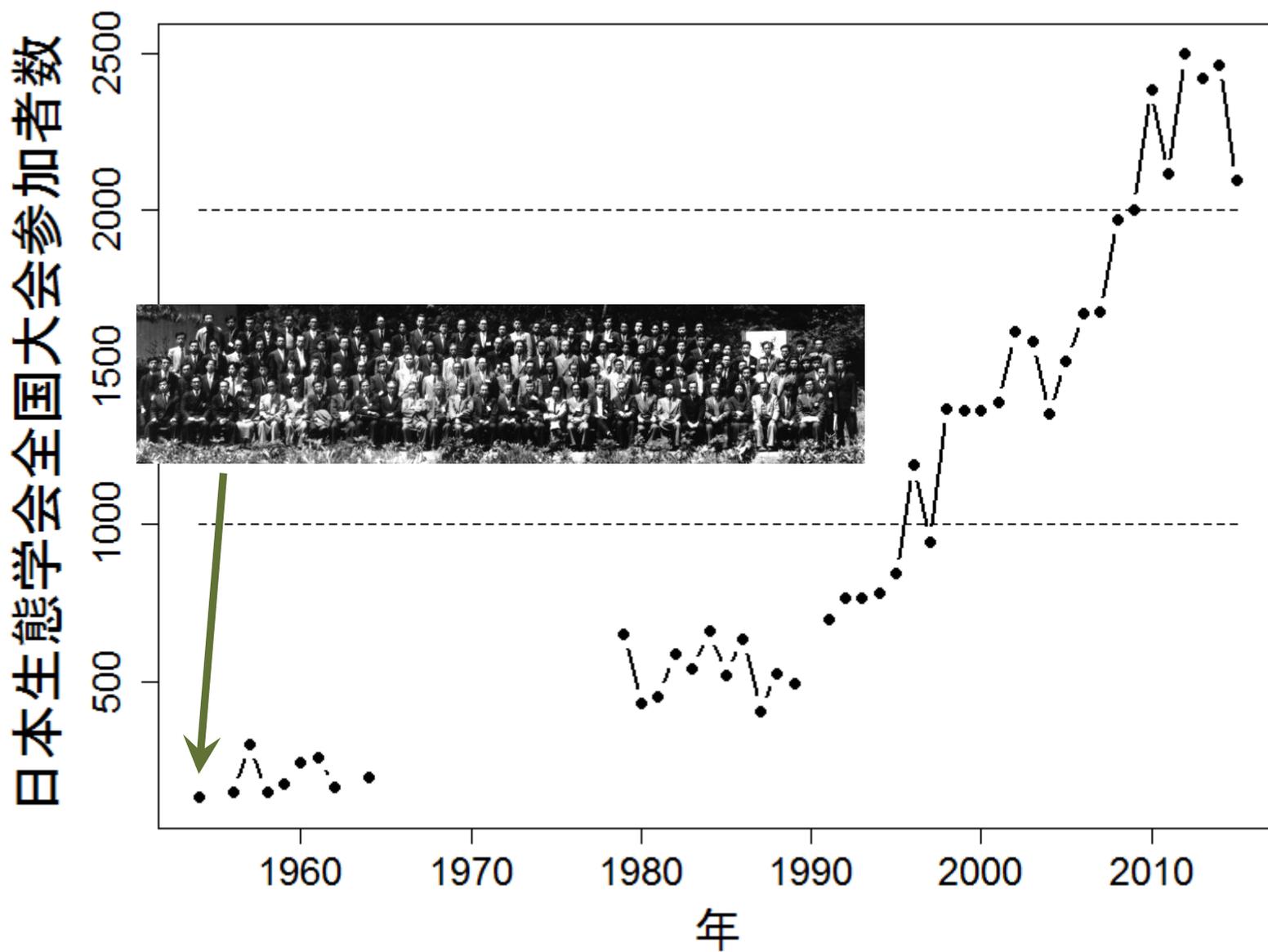
1954年5月2日に東京都港区の国立科学博物館・ 附属自然教育園で行われた生態学会創立総会



「第1回大会時の参加者全員の写真(故沼田眞先生提供)。生態学会はこの前年に創立されましたが、総会は翌年に行われています。このときの参加者はおよそ130人でした。」

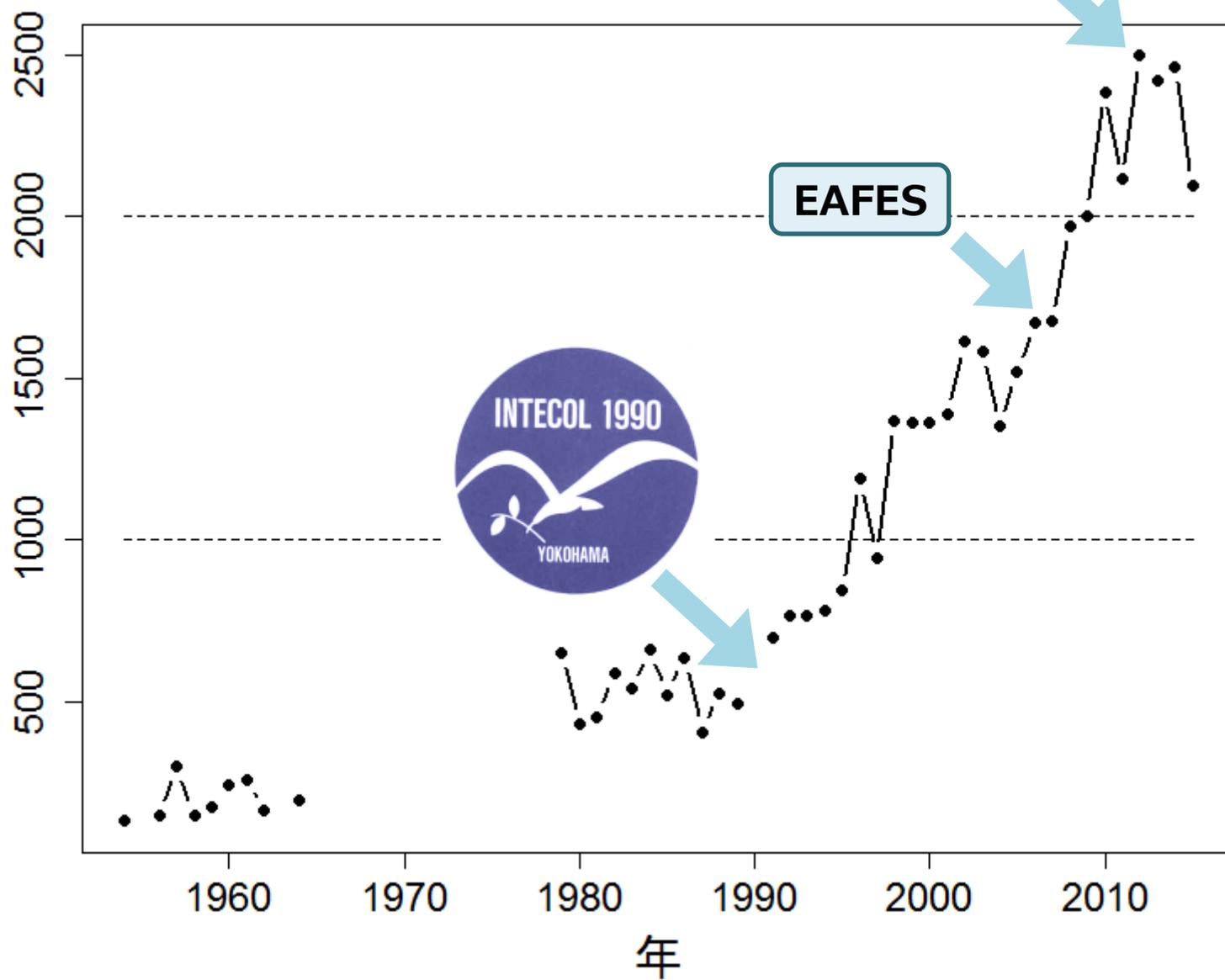
http://www.esj.ne.jp/meeting/info/history/50th_aniversary.html

●最近の参加者は、第1回の20倍近くです。



日本生態学会全国大会参加者数

●こんなこともありました。



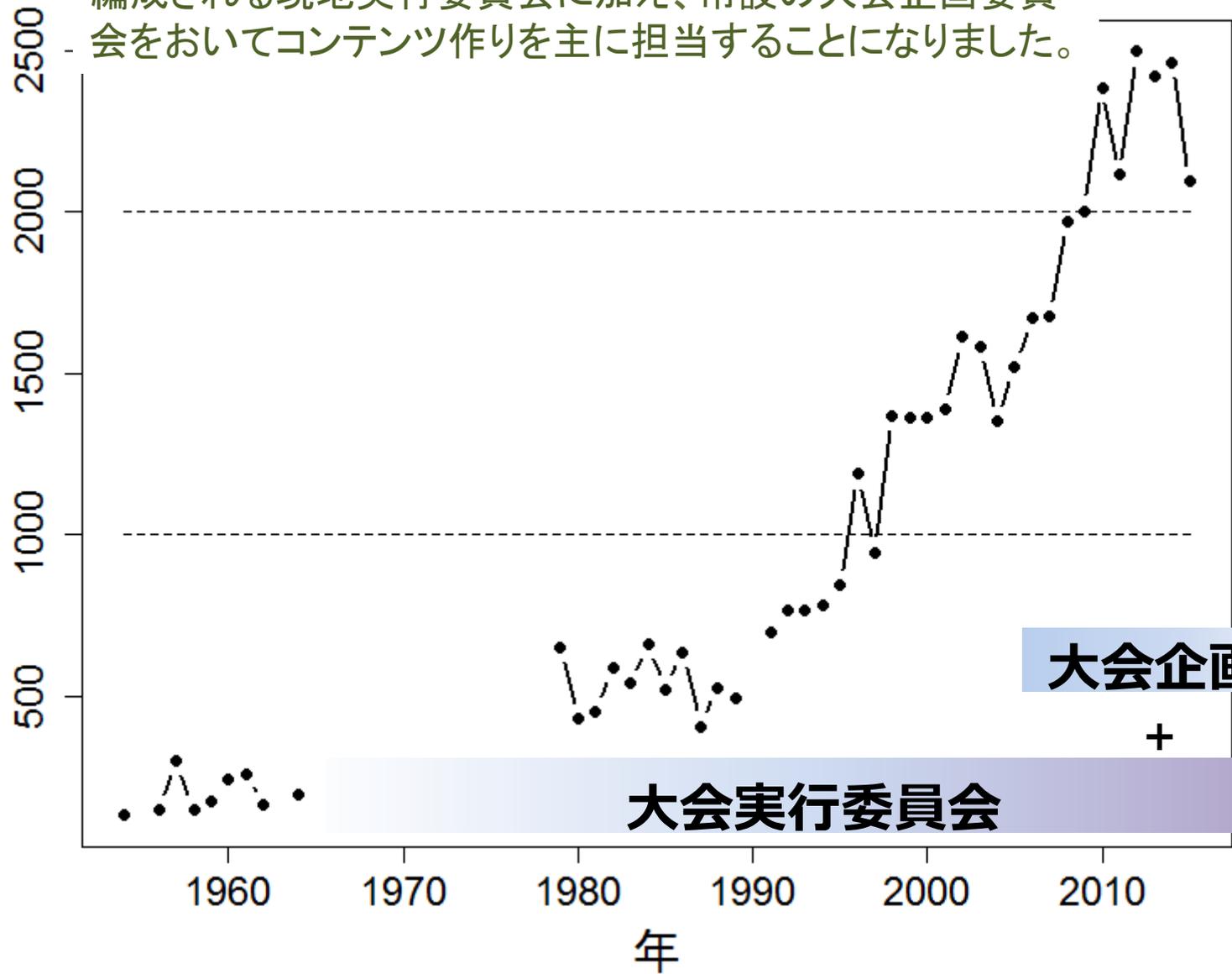


●INTECOL1990のロゴマークについて、実行委員会広報担当の木村允さんが書かれた文章は味があります。

(前略) 最初デザイナーが画いてきたのはカモメだけだったが、「植物の絵もほしい」という要望からカモメが小枝をくわえることになったと聞く。デザイン的にはひどくダサイものになってしまったという評もある。そうだとしてみ一向にかまわない。生態学はもともとダサイ学問であることを誇りにしているのである。いったいカモメが枝をくわえて飛ぶかという疑問も聞こえる。これも生態学的にみれば短絡的な見方でしかない。この図は、植物体が水中に落ち、分解されてバクテリアのからだになり、動物プランクトン、魚を経て水鳥へとつながるエネルギー流を凝縮して表現したものなのである。(後略)

(木村允 (1987) 「第5回国際生態学会議について」
生態学会関東地区会報 36、p20より)

日本生態学会全国大会参加者数

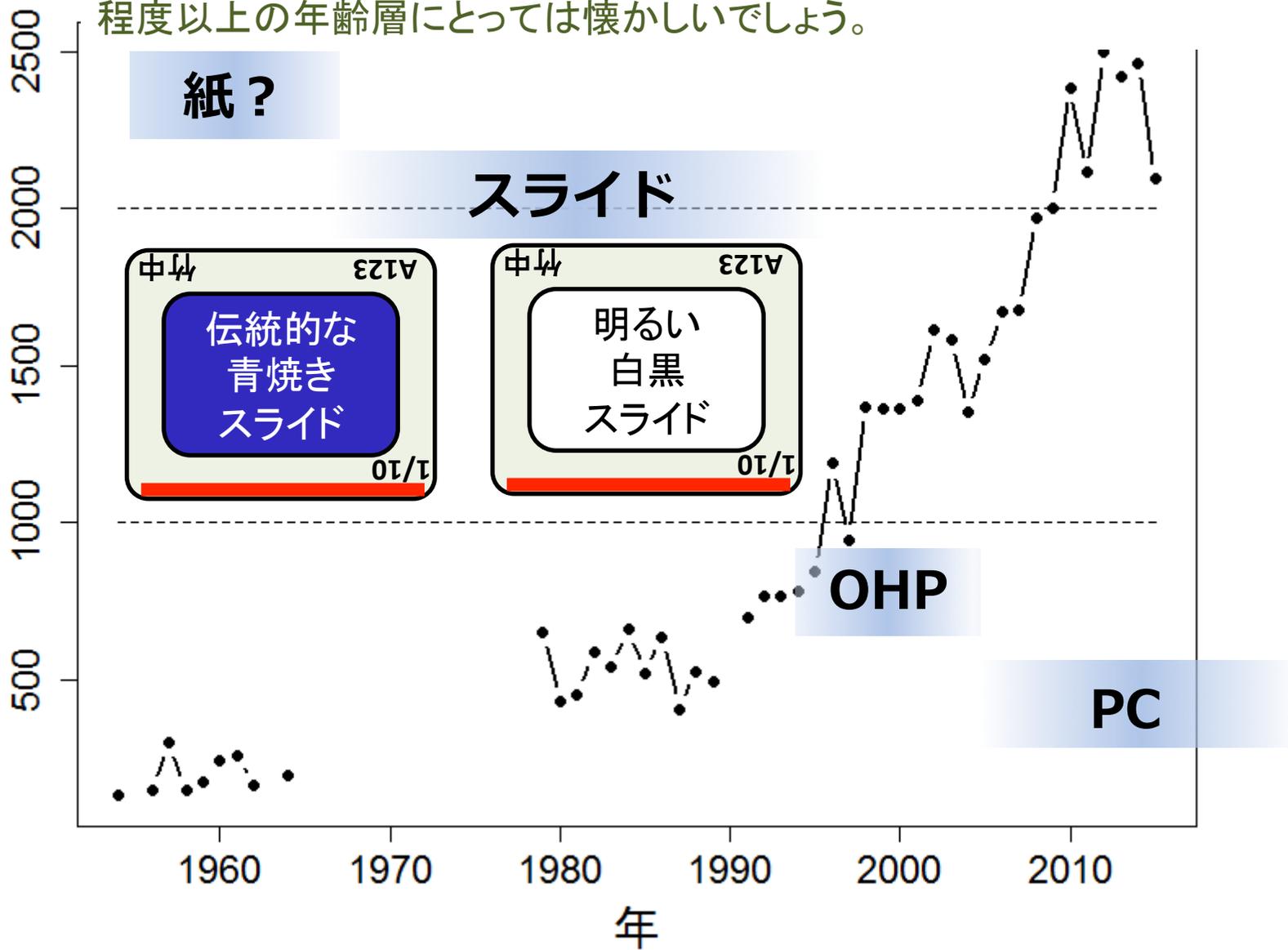


大会実行委員会

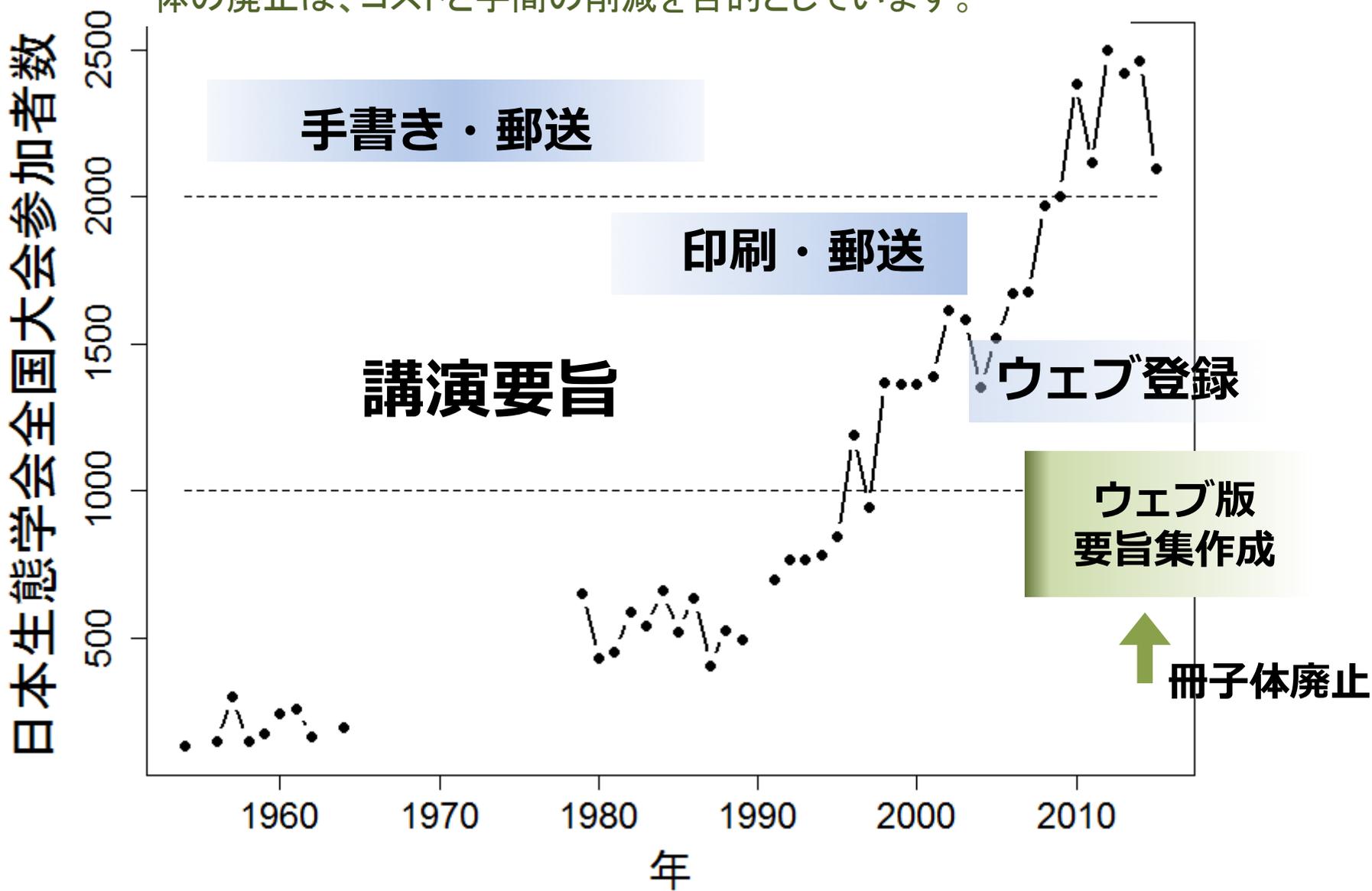
大会企画委員会

+

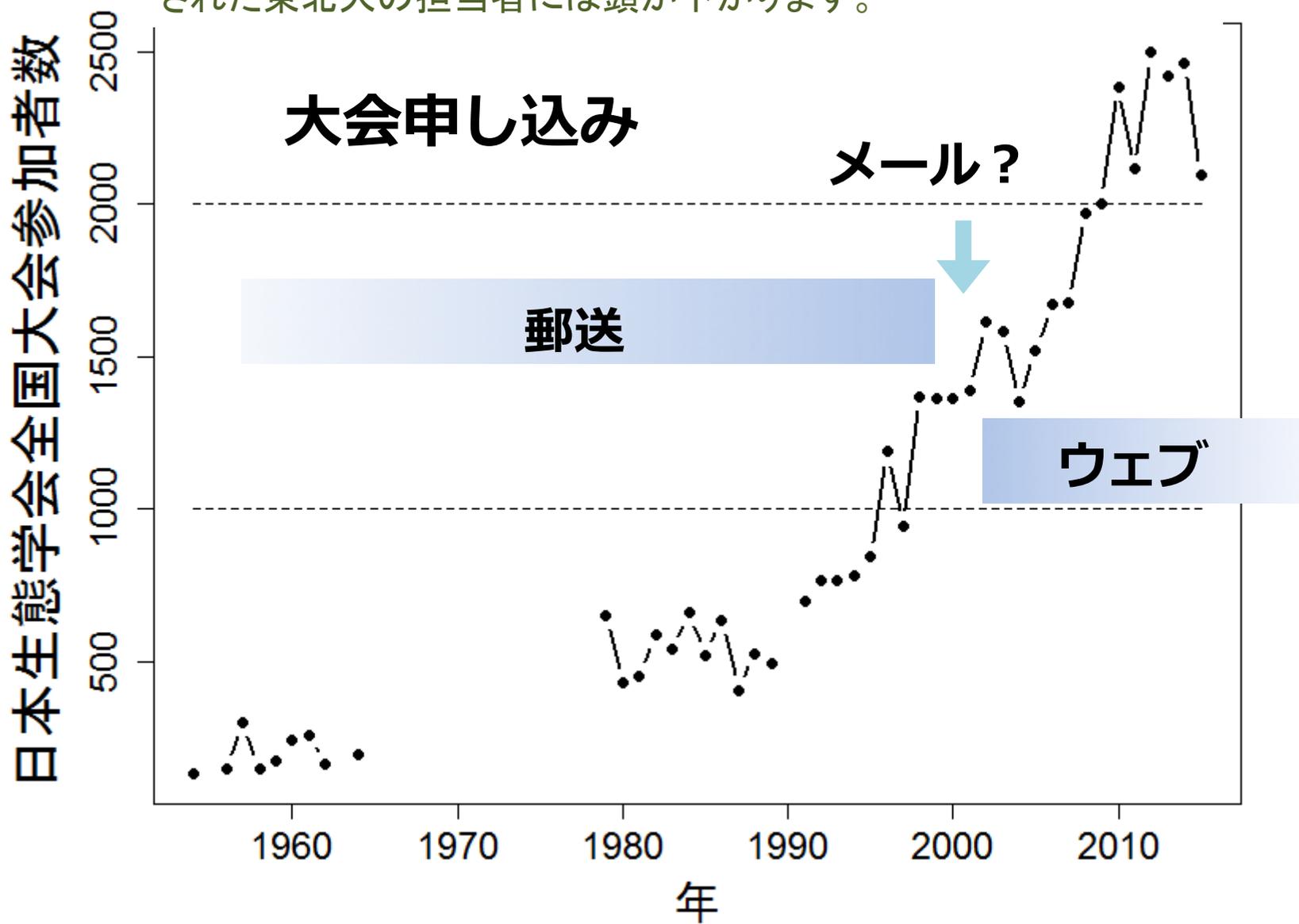
日本生態学会全国大会参加者数



● ついでに要旨の登録方法も振り返りましょう。要旨集の冊子体の廃止は、コストと手間の削減を目的としています。



●大会の申し込み方法も変わりました。登録メールに一人に対応された東北大の担当者には頭が下がります。



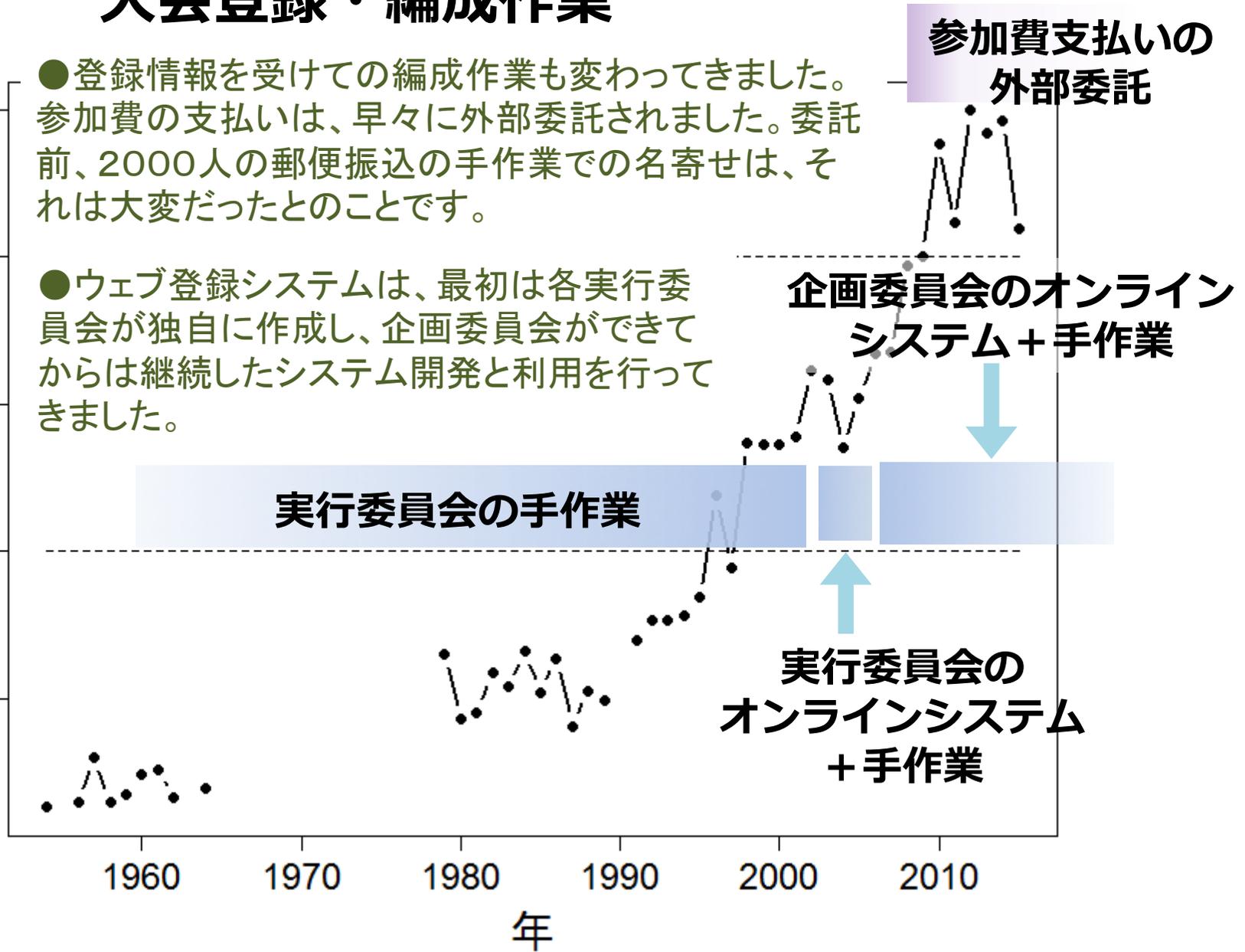
大会登録・編成作業

日本生態学会全国大会参加者数

2500
2000
1500
1000
500
年

●登録情報を受けての編成作業も変わってきました。参加費の支払いは、早々に外部委託されました。委託前、2000人の郵便振込の手作業での名寄せは、それは大変だったとのこと。

●ウェブ登録システムは、最初は各実行委員会が独自に作成し、企画委員会ができてからは継続したシステム開発と利用を行ってきました。



日本生態学会全国大会参加者数

2500
2000
1500
1000
500
1960 1970 1

● 企画委員会が管理するオンラインシステムは、参加者向けの各種登録システムと、運営担当者が使用するシステム、合わせると約20,000行のプログラムです。

大会登録・編成作業

実行委員会の手作業

企画委員会のオンラインシステム+手作業

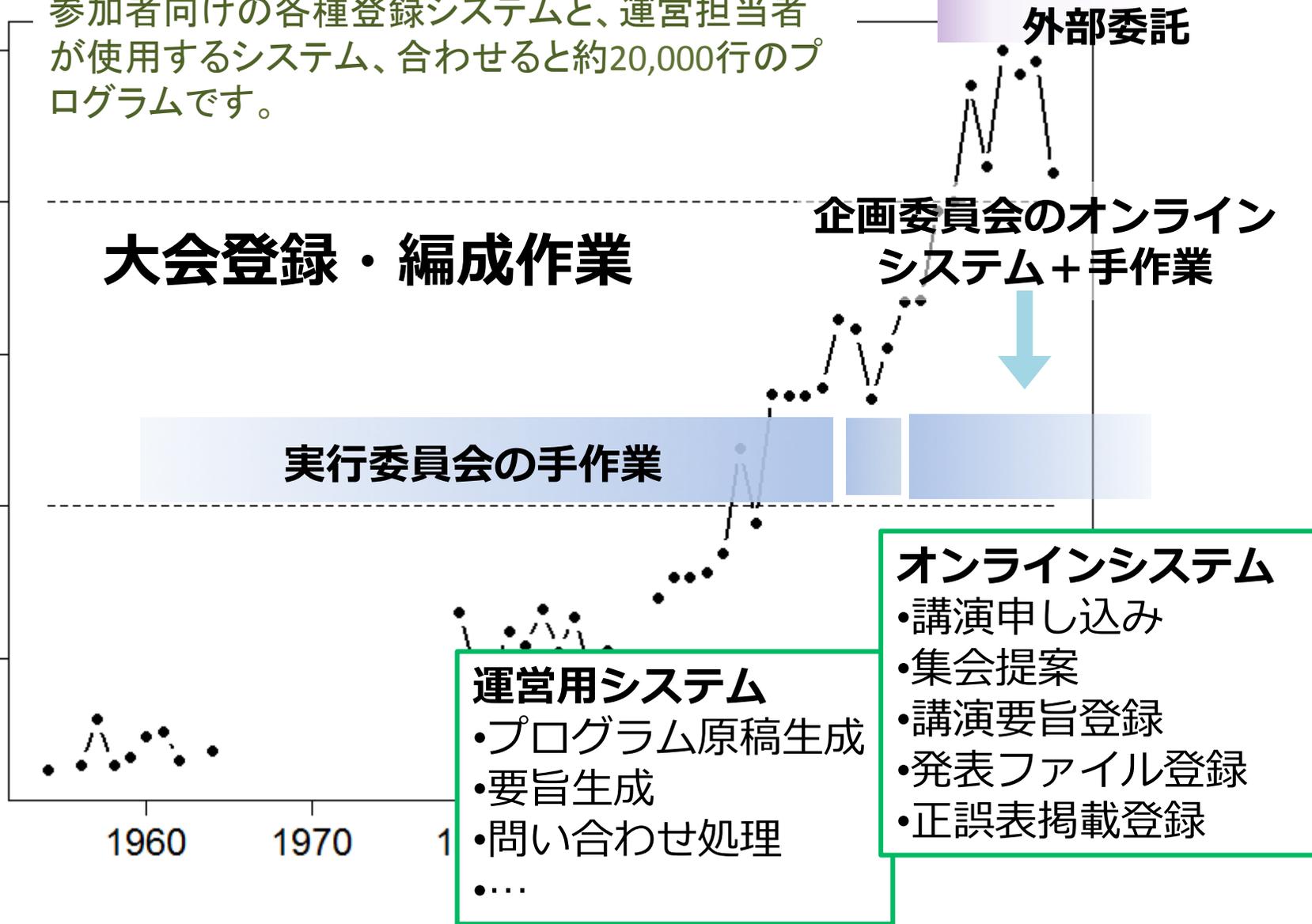
参加費支払いの外部委託

オンラインシステム

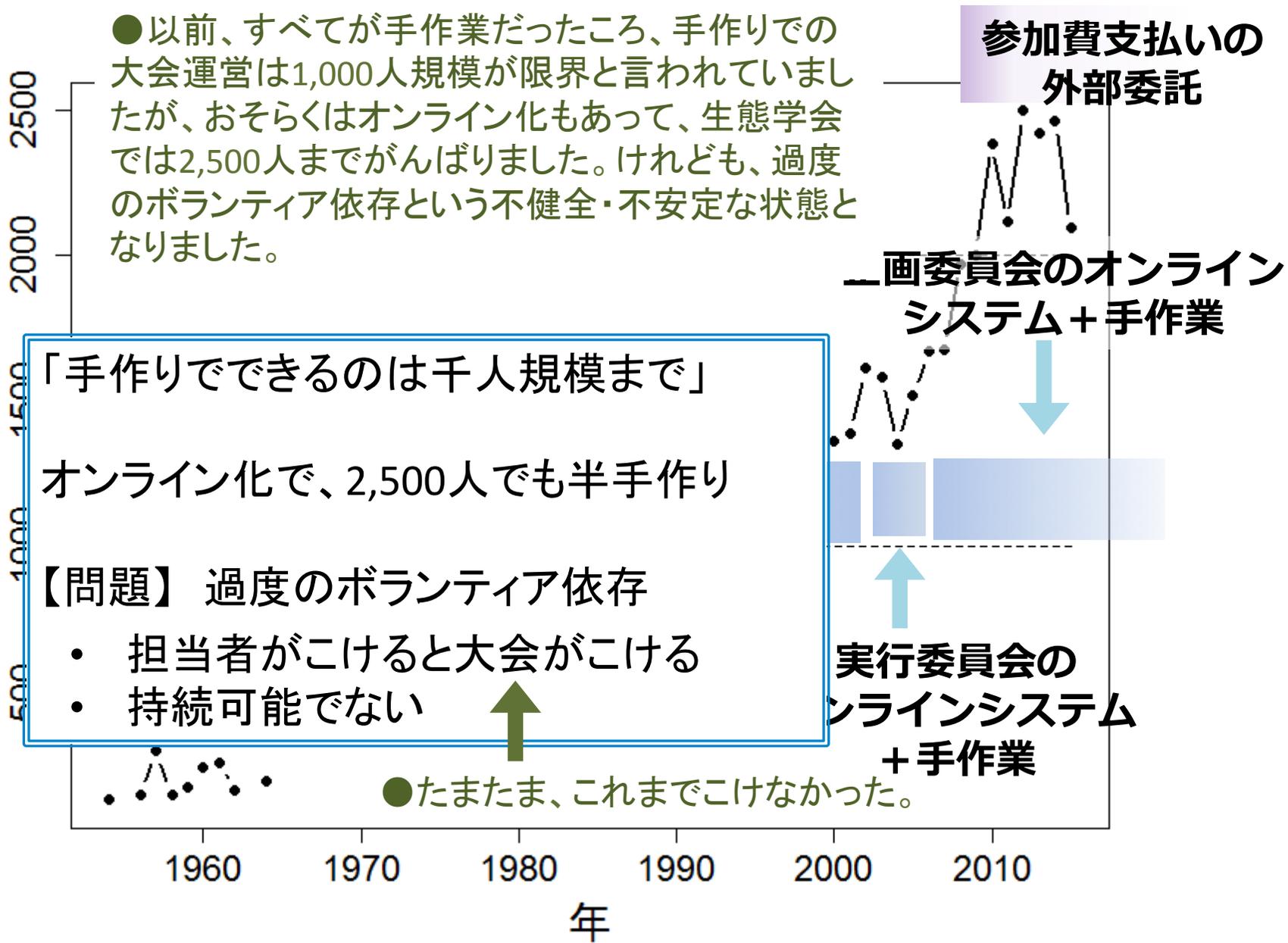
- 講演申し込み
- 集会提案
- 講演要旨登録
- 発表ファイル登録
- 正誤表掲載登録

運営用システム

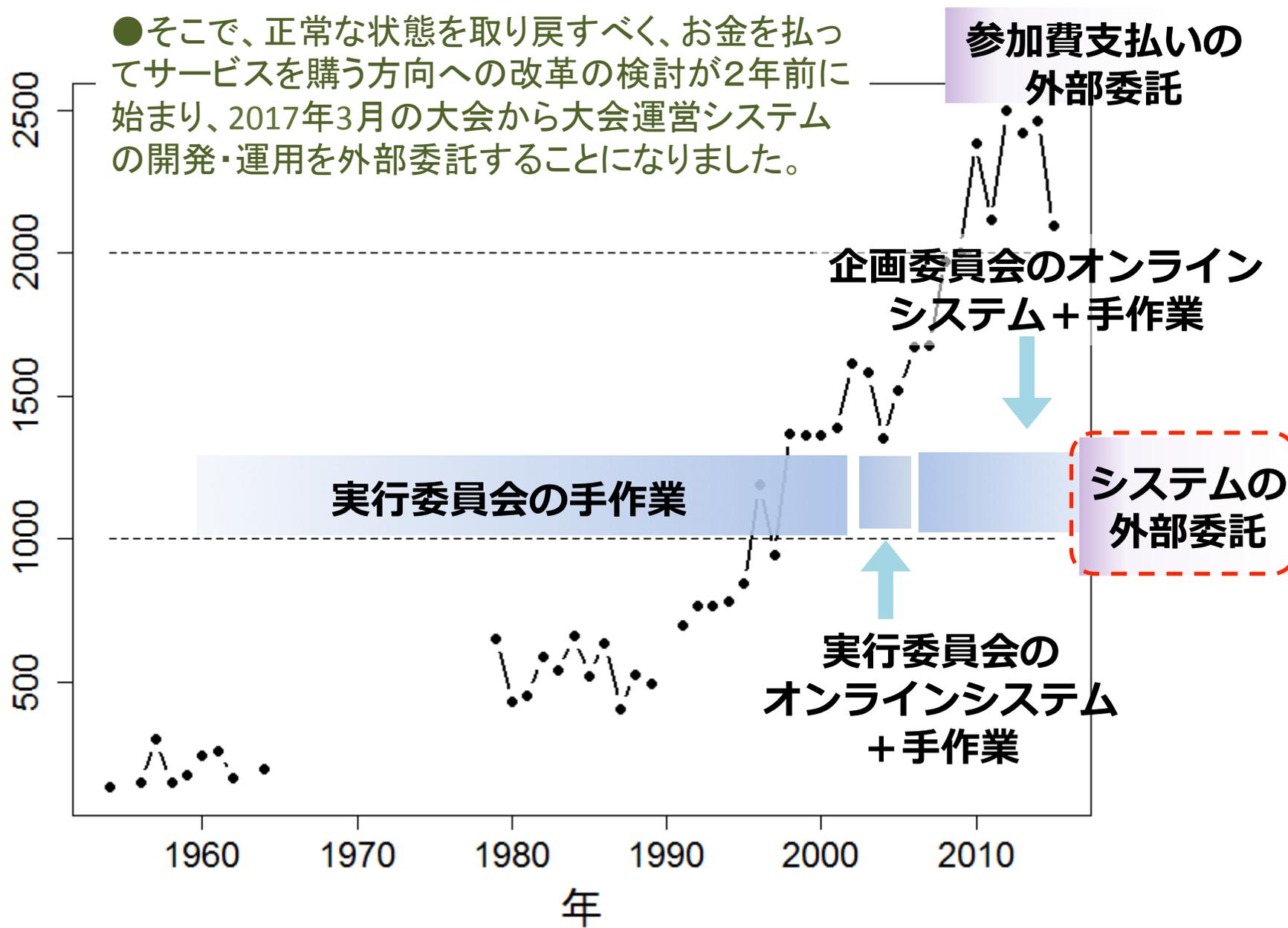
- プログラム原稿生成
- 要旨生成
- 問い合わせ処理
- …



日本生態学会全国大会参加者数

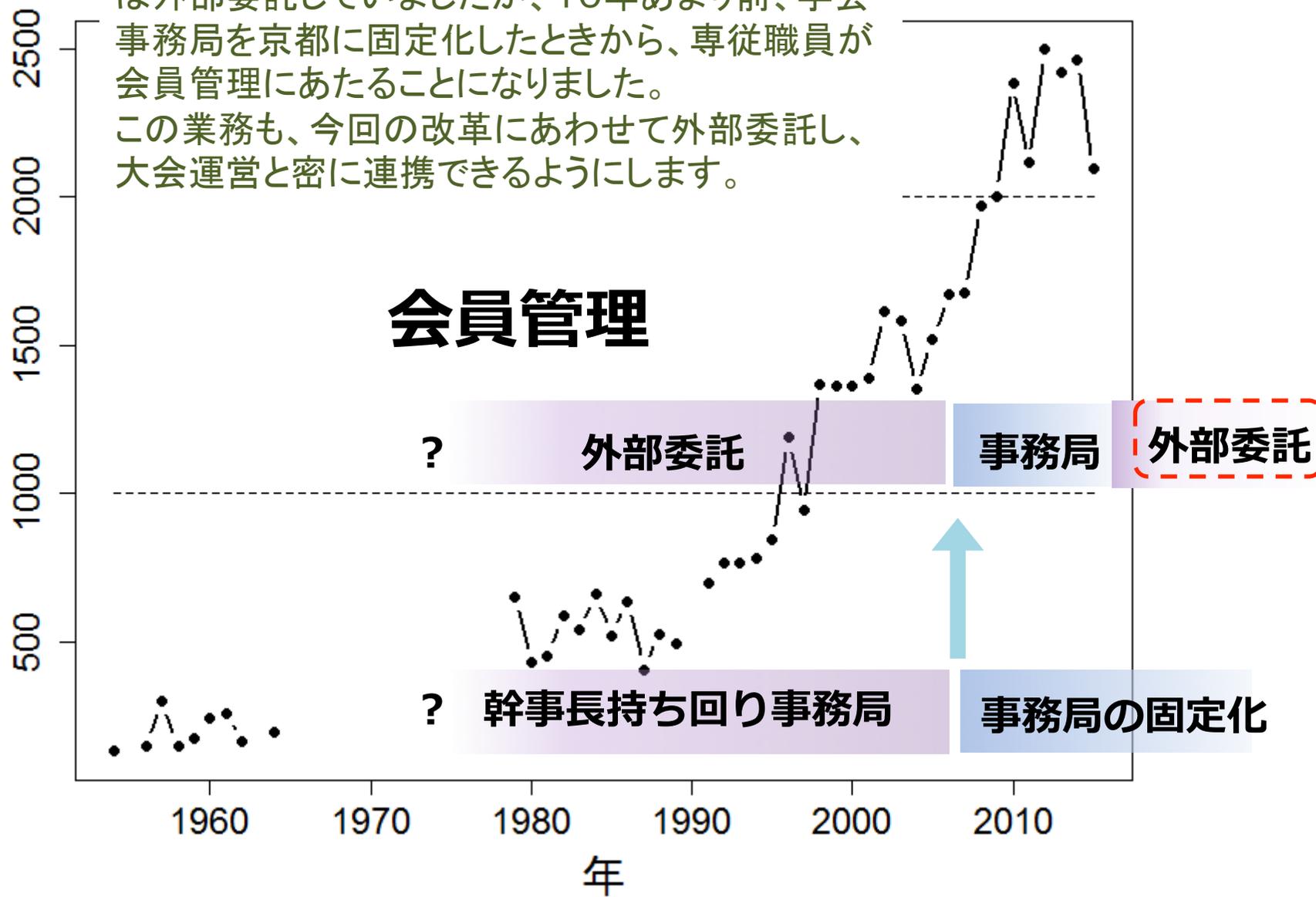


日本生態学会全国大会参加者数

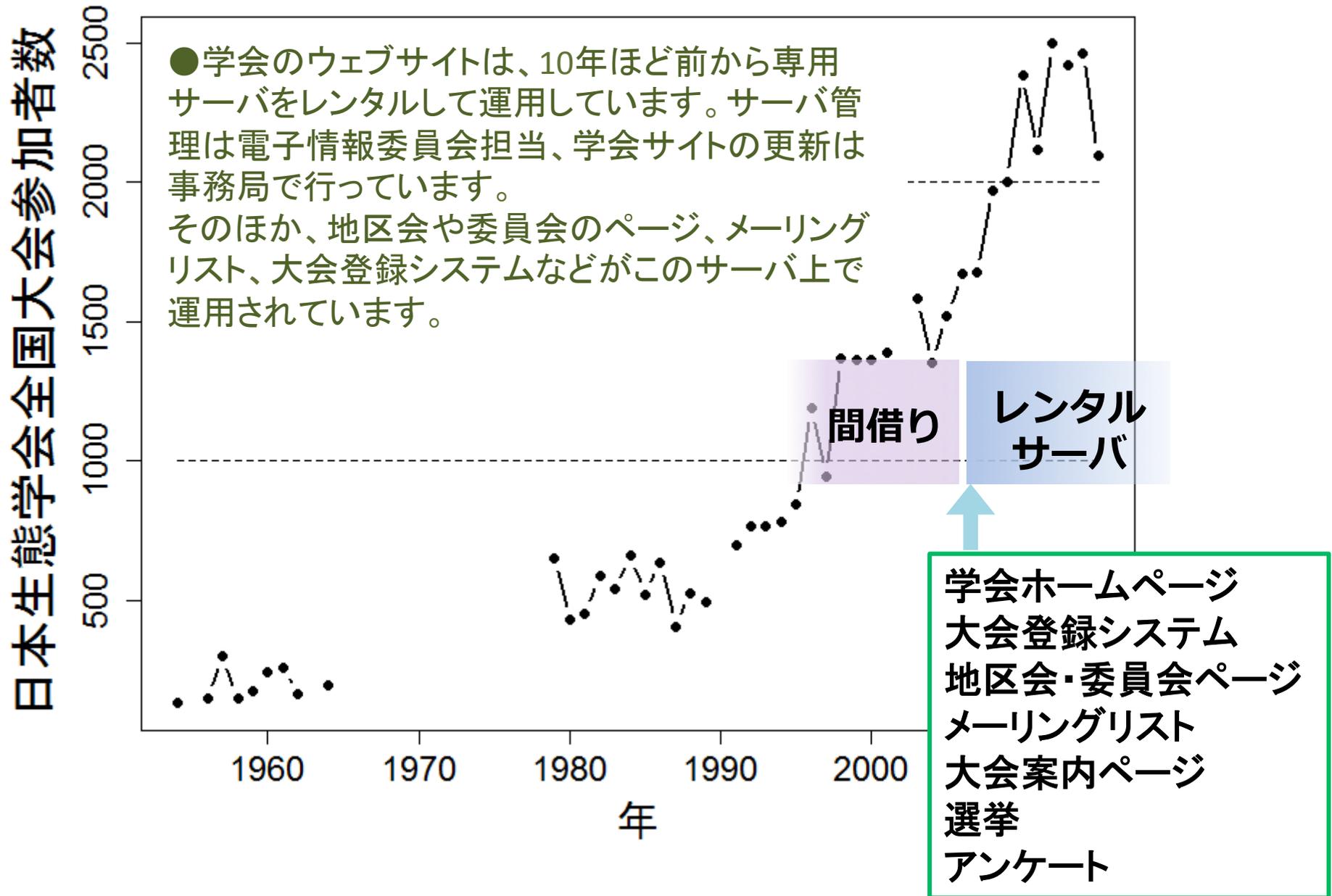


日本生態学会全国大会参加者数

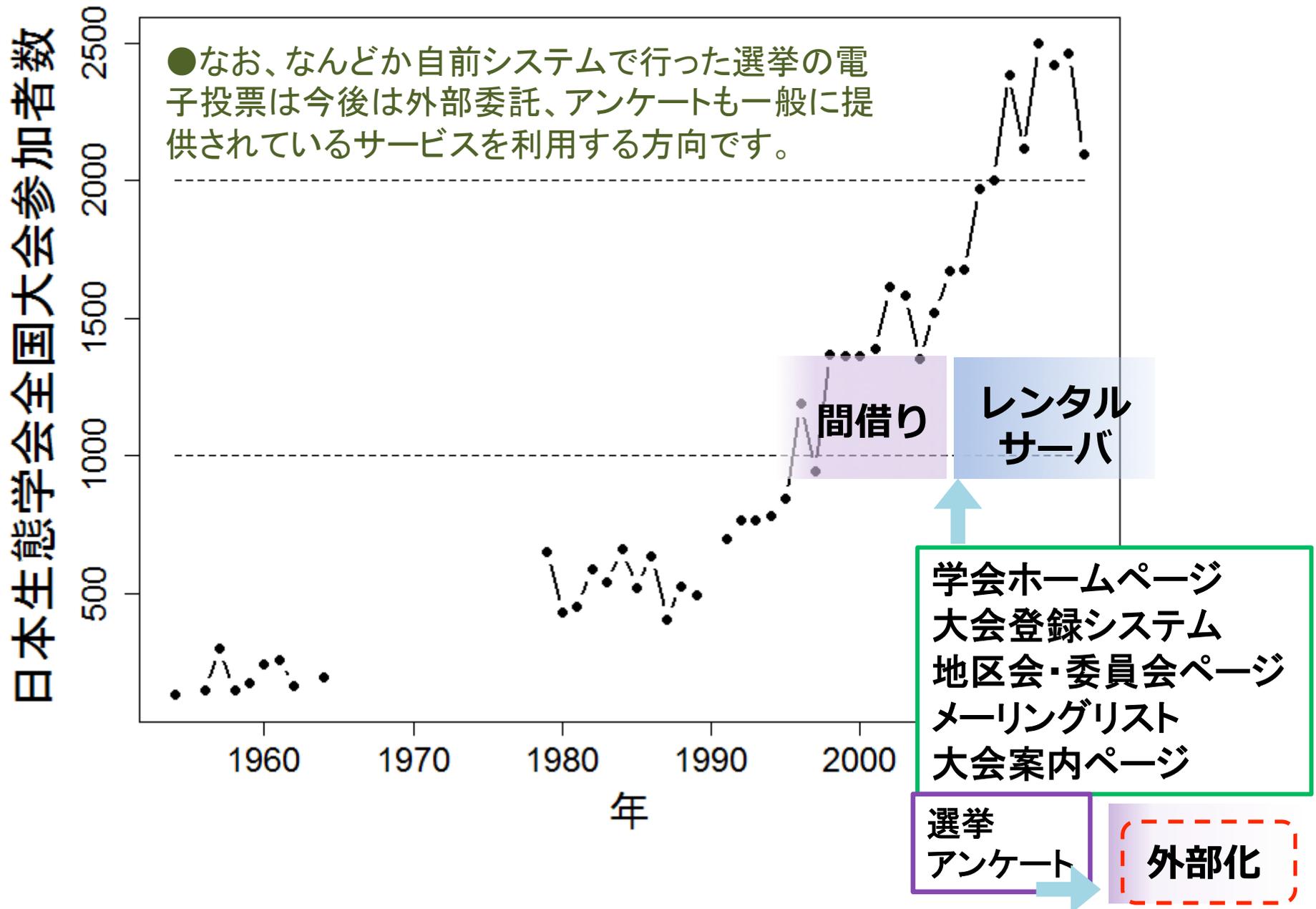
● ついでに会員管理の歴史も振り返ります。以前は外部委託していましたが、10年あまり前、学会事務局を京都に固定化したときから、専従職員が会員管理にあたることになりました。この業務も、今回の改革にあわせて外部委託し、大会運営と密に連携できるようにします。



学会のウェブサイト

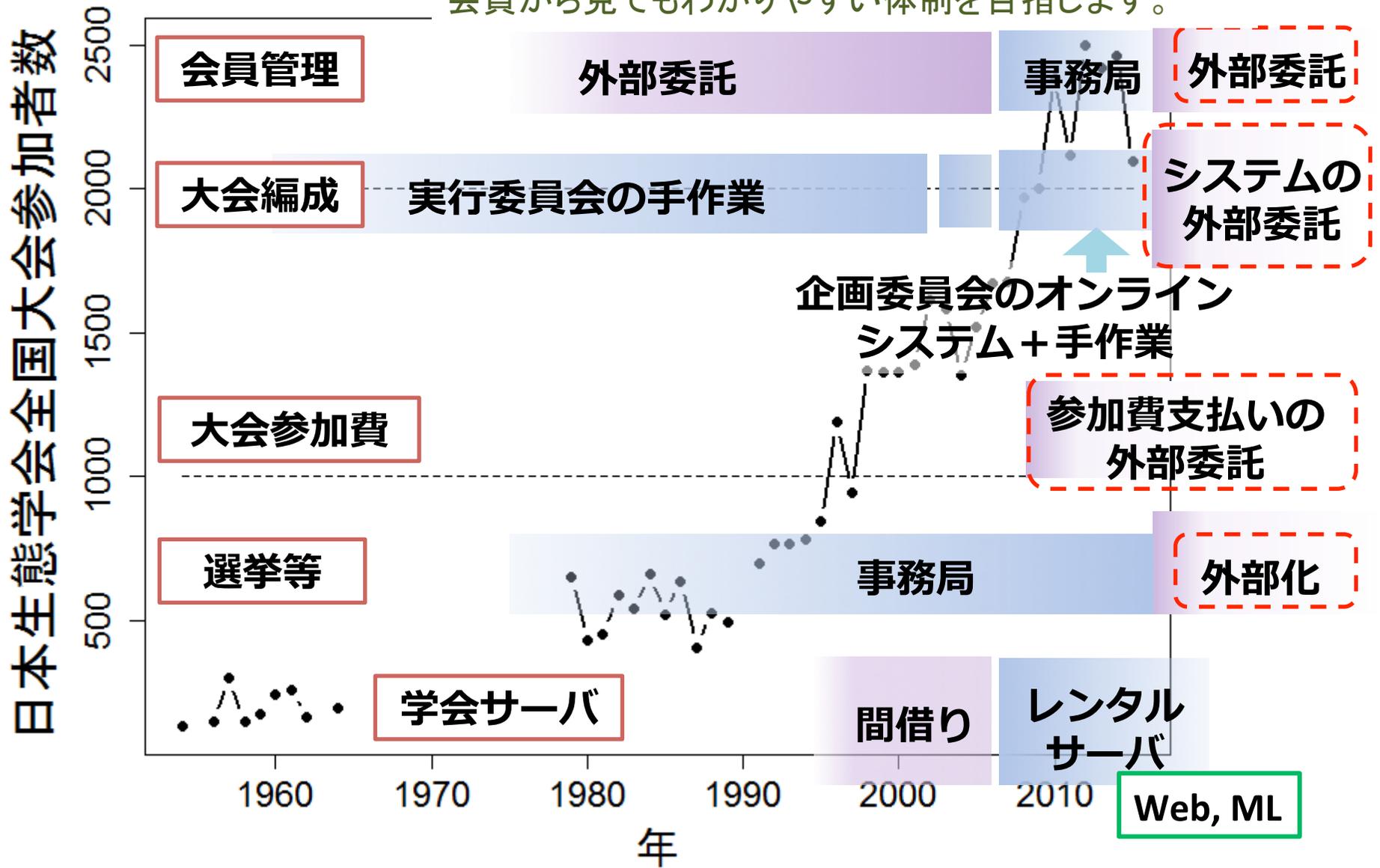


学会のウェブサイト

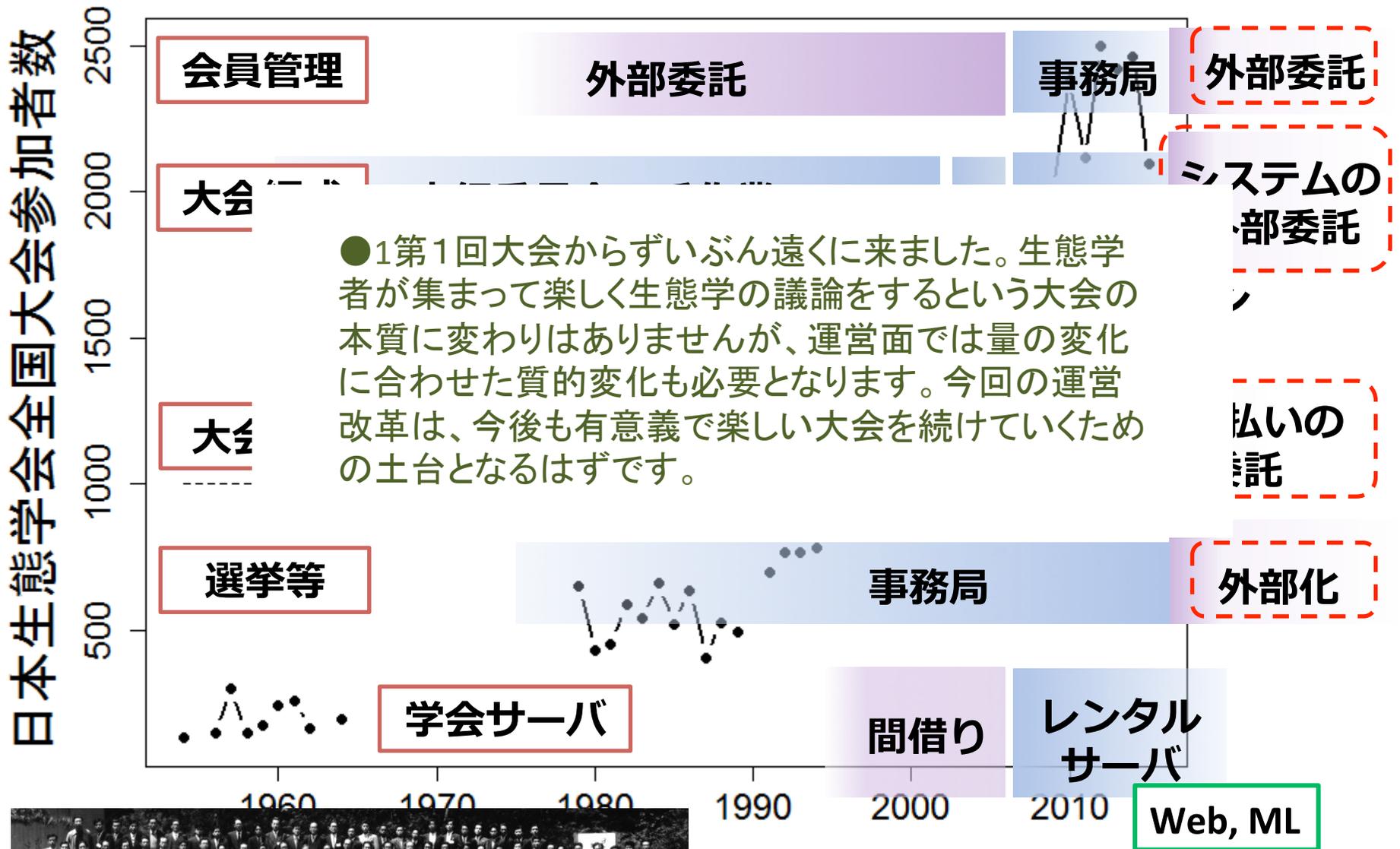


まとめ

●ここまでをまとめます。いろいろなことを外部化するとともに、会員情報など可能なかぎり一元管理して、会員から見てもわかりやすい体制を目指します。



まとめ



量は質に転化する？